

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	弘前方言の音調パターンについて
Author(s)	小林, 泰秀
Citation	ニダバ , 14 : 53 - 54
Issue Date	1985-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047167
Right	
Relation	



弘前方言の音調パターンについて

小林泰秀

弘前方言の基本音調メロデーは LH である。音調対応規則によって、アクセント核のある語句は、一番右の \dot{V} と H が対応し、アクセント核のない語句は、一番右の V と H が対応する。

- (1) a. $\begin{array}{c} \text{suzume}, \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ b. $\begin{array}{c} \text{inōti}, \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ c. $\begin{array}{c} \text{amē} \text{「雨」} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ d. $\begin{array}{c} \text{ame} \text{「飴」} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ e. $\begin{array}{c} \text{sakana} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$

次に適格性の条件によって、浮動する音調素と音調を担う要素はなくなる。

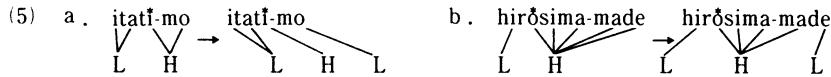
- (2) a. $\begin{array}{c} \text{suzume}, \\ \diagup \quad \diagup \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ b. $\begin{array}{c} \text{inōti}, \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ c. $\begin{array}{c} \text{amē}, \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ d. $\begin{array}{c} \text{ame}, \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$ e. $\begin{array}{c} \text{sakana} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array}$

基本音調メロデーが HL である東京方言では、 \dot{V} の次のモーラが L ピッチになるが、逆に弘前方言では、 \dot{V} の次の音節が H ピッチになる。 \dot{V} のない語句は、常に最後の音節が H ピッチ (LH メロデー) になるが、 \dot{V} のある語句でも最後の音節が L ピッチになるのは言い切りの場合であり、そのうしろに別の語句が続く場合には、次の(3)のようにピッチが下がることはない。

- (3) a. $\begin{array}{c} \text{sakana} \# \# \text{iru}, \\ \overline{\text{sakana}} \quad \overline{\text{iru}}, \end{array}$
 b. $\begin{array}{c} \text{itatī} \# \# \text{iru}, \\ \overline{\text{itatī}} \quad \overline{\text{iru}}, \end{array}$
 c. $\begin{array}{c} \text{tanuki} \# \# \text{iru}, \\ \overline{\text{tanuki}} \quad \overline{\text{iru}}, \end{array}$
 d. $\begin{array}{c} \text{suzume} \# \# \text{iru}, \\ \overline{\text{suzume}} \quad \overline{\text{iru}}, \end{array}$

LH が基本音調メロデーである弘前方言には、表層のメロデーを派生する為に、二つの語末の音調を下げる規則が必要である。一つは(4)のように下降調にする規則であり、もう一つは(5)のように L 平調にする規則である。

- (4) a. $\begin{array}{c} \text{amē} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array} \rightarrow \begin{array}{c} \text{amē} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \quad \text{L} \end{array}$ b. $\begin{array}{c} \text{atamā} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \end{array} \rightarrow \begin{array}{c} \text{atamā} \\ | \\ \text{L} \quad \text{H} \quad \text{L} \end{array}$



基本音調メロデーが HL である東京方言には、表層音調メロデーを派生する規則として語句頭低調規則が必要であるが、弘前方言には東京方言とは鏡像の規則である(5)のような語句末低調規則が必要であるので、弘前方言を東京方言とうら返しの関係にある方言とみなすことが出来る。

一つの音節が LH 調をもつ場合、音調単純化規則により、 H になる。

